

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.99

2008/02/23

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

半年にわたる編集作業を終え待望の 子ども向けガイドブック

「モリアオガエルとともに」刊行なる

刊行には「おうみ NPO 活動基金」の助成を受けました

2007 年 5 月 19 日の第 1 回編集委員会をかわきりに、12 回の編集委員会を重ね刊行の運びとなりました。評価は第三者がするのが世の習いですが、ロマンチックでもあり、子どもはその先・その先のページを繰るのがもどかしいと思うだろうほどの仕上がりです。この種の本でこのような構成になっているものは、類例を見ないと思うのだが・・・この間編集委員各位には、星空を見ながら帰宅して頂くということも再三でした。特に伊藤編集長にはコストダウンをするため日夜レイアウトに奮戦していただきましたし、近成委員には、全体のストーリー構成を考えて頂きました。お疲れ様でした。今後は、このガイドブック片手に、次の世代を担ってくれる子どもたちが、「山門水源の森」の自然を楽しんでくれればと思います。

刊行なったガイドブック (08/02/20)

難しい犯人捜し・・・

アカガシ林の林床荒らしの犯人

イノシシ・シカ・ニホンカモシカ・・・？

積雪が始まると毎年のようにアカガシ林の林床は、左の画像のように雪の下にドングリ探しが始まる。これまで、この仕業はイノシシであろうと決めつけて何の疑問も抱かなかったのだが・・・

2月4日イノシシが掘り返し作業中に出くわしたことから、イノシシ

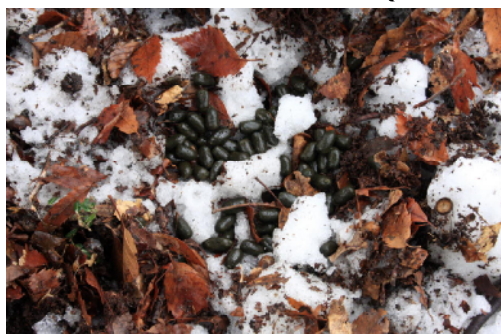


が掘り返すことは確実なのだが。掘り痕には、シカかカモシカの糞（両者の区別は素人には難しい）や足跡（これも同定が簡単でない）、加え



アカガシの林床の掘り痕 (08/02/04)

イノシシが掘った痕 (08/02/04)



シカ？カモシカ？の糞 (08/02/04)

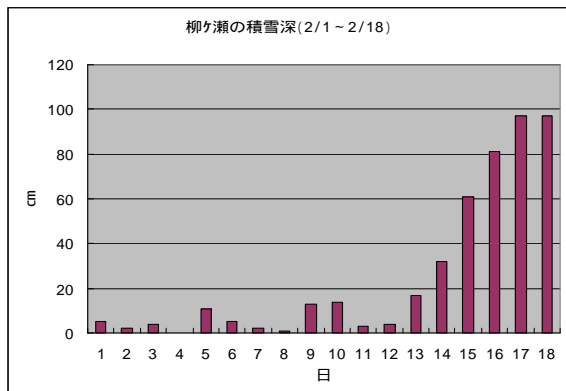


ドングリの喰い滓 (08/01/09)

てドングリの喰い痕等が散在し、すべてがイノシシの仕業なのかどうか確定が難しい。もちろん主犯はイノシシで他は掘り痕を後から他の動物が利用したことも考えられるのだが。

今冬最高の積雪か？

暖冬と言われながらも「山門水源の森」の位置する滋賀県北部は、2月に入って断続的に降雪が続いた。



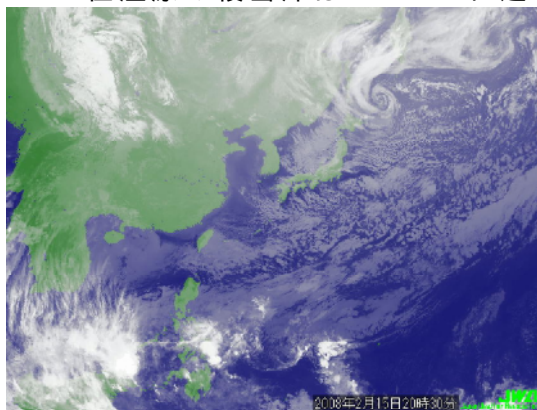
2月18日「やまかど・森の楽舎」の積雪状況

「山門水源の森」には積雪深の連続記録が無いので最も近い気象庁のアメダス観測地点『柳ヶ瀬』の観測値から積雪深の変化をグラフにしたのが左図である。

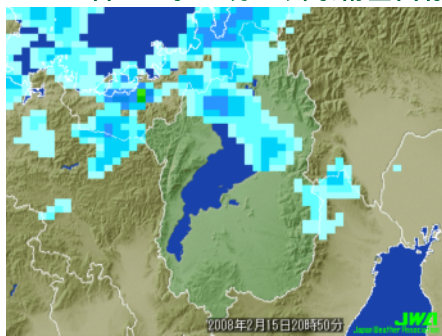
今回の降雪は13日から17日まで続いた。18日現在湿原の積雪深は **132 cm** に達した。今回の降雪のパターンは、滋賀県での典型的な冬型の降雪パターンとなり、それまでの「南雪」から「北雪」をもたらした。今回の降雪は湿っており樹木等への着雪も著しく、「山門水源の森」でもあちこちで枝折れ等が見られる。また久々の多量積雪により



15日18時の天気図



15日20時30分の気象衛星画像



15日20時50分のアメダスの雪雲

pH 測定のため湿原で掘った穴 (08/02/18) もたらされた可能性が高い。ちなみにこの日、湿原から流れる沢の水のpHの値は **6.6** であった。沢の水のpH値は年中この値を前後している。これだけ酸性度の高い降雪・降雨が継続すれば地域の生物に大きな影響が出ることは避けられない。ただ湿原そのものは、もともとpH値が4.5～5.3であるため、このことによって直接被害が出ることは考えられないが、後背地の生物には影響が考えられるため二次的な影響も考えておく必要がある。



積雪に被われるミヤマウメモドキ 2 態 (08/02/18)

白銀の世界は魅力的なのですが・・・

左の画像は、ミヤマウメモドキの樹が、雪に被われた状態です。何とも魅惑的な景観です。がこれに惑わされたら大変です。右の画像の状態からもう少し積雪が増すと、下に隠れた魔物が全く見えません。要注意!!